

News Letter 2026

〒 606-0805 京都市左京区下鴨森本町 15 生産開発科学研究所 3F
TEL&FAX : 075-744-0070 E-mail : info@jvdrf.or.jp <https://www.rfha-jpn.org/>

2026 年度 健康加齢医学賞－岡本・井村賞－および奨励賞 公募(3月10日～5月10日)

2026 年度から褒賞事業の内容を 2025 年 2 月の当財団「あり方委員会」で検討した結果、基礎研究と臨床研究を統合し、毎年 健康加齢医学賞－岡本・井村賞－を募集することが、2025 年 6 月の理事会にて決議されました。また健康加齢医学奨励賞－岡本・井村賞－を 2 名以下から 3 名以下に増枠します。

健康加齢医学賞－岡本・井村賞－

(Healthy Aging Award -Okamoto・Imura Award-)

健康加齢医学奨励賞－岡本・井村賞－

(Young Investigator Healthy Aging Award -Okamoto・Imura Award-)

<趣旨と過去からの変更点>

胎生期から高齢期までの加齢に伴う身体機能の変化と、それに関連して起こる疾患の成因、病態、診断、治療、予防などに関する健康加齢医学研究（基礎研究のみならず臨床医学研究に加え、橋渡し研究、疫学研究も含む）で優れた業績を挙げた国内の研究者に贈呈します。受賞者の年齢上限も統一されました。

✓ 基礎系：岡 本 国 際 賞（1987 年度～2024 年度）および奨励賞

✓ 臨床系：井村臨床研究賞（2004 年度～2025 年度）および奨励賞

（2017 年度からは隔年で公募、顕彰）

褒賞事業は 2026 年度以降「健康加齢医学賞－岡本・井村賞－」および「健康加齢医学奨励賞－岡本・井村賞－」に統合し、毎年公募・表彰します。

また健康加齢医学賞－岡本・井村賞－の賞金は 300 万円に増額し、健康加齢医学奨励賞－岡本・井村賞－は 30 万円で、3 名に増枠しました。

基礎研究者、内科系研究者に加え、外科系研究者や疫学研究者の応募も広く歓迎します。

<募集期間の変更>

2026 年度より健康加齢医学賞－岡本・井村賞－および健康加齢医学奨励賞－岡本・井村賞－の公募期間は 2026 年 3 月 10 日から 2026 年 5 月 10 日までの 2 か月間とします。

なお、公募要項や応募フォームは当財団のホームページ <https://www.rfha-jpn.org/> に掲出しておりますのでご参照ください。

新任理事・監事の紹介

前号 (News Letter 2025) にて 3 名の新任理事からメッセージをいただきました。

今回、同時期に理事及び監事に就任された以下の 3 名にメッセージをお願いしました。

理事就任挨拶

国立循環器病研究センター・名誉研究所長 寒 川 賢 治



この度、健康加齢医学振興財団の理事に就任した寒川です。

私は 40 年以上にわたり、生体内の情報伝達に関わる未知のペプチドホルモンの探索研究を行ってきました。未知のペプチドの探索は発見出来ると大きなブレークスルーに繋がりますが、発見に至らなければ成果はゼロであり、論文にならないストレスの多い研究です。当初は試行錯誤

で思うように行きませんでした。その後新たな独自の探索法の確立により、幸運にもナトリウム利尿ペプチドやグレリンなど多くの新規ペプチドに出会うことができました。それらの成果に対して、本財団の前身である成人血管病研究振興財団より 2002 年度岡本国際賞を授与されました。

本財団ではこれまでの褒賞事業に代わり、2026 年度より新たに「健康加齢医学賞－岡本・井村賞－」が設置されましたので、多くの優れた研究者の皆さんの応募を期待しています。

慶應義塾大学 予防医療センター 特任教授

慶應義塾大学 名誉教授 伊 藤 裕



この度、健康加齢医学振興財団の理事に就任した慶應義塾大学の伊藤でございます。わたくしは、財団が、2018 年健康加齢医学振興財団(当時理事長：井村裕夫 京都大学名誉教授)と改称された年に、「井村臨床研究賞」を頂き、その後、同賞の選考委員長を務めさせていただきました。「健康加齢」の名称には、Well Being with Healthy Aging すなわち、胎児期から高齢者に至るライフコース全般での成長・成熟・萎凋、そして次世代への生の継承が健全に実現されることで初めてウェルビーイングが生まれることの財団の認識が明確に示されています。その成就を財団の目標として、中尾新理事長は、基礎医学、臨床医学、社会実装活動が一体となった研究活動の推進を目指して、基礎医学の「岡本国際賞」、臨床医学の「井村臨床研究賞」を、「健康加齢医学賞－岡本・井村賞－」に統合・進化されました。わたしは財団のこの意図に深く共鳴するものであり

ます。2003 年に肥満に端を発するメタボリックシンドロームの流れを「メタボリックドミノ」として示し、その成因、病態生理を多角的に検討、ホルモンのエピゲノム作用による臓器記憶の形成、特に栄養・代謝制御のハブ臓器の腸管、腎臓の過活動の意義を明らかにしてまいりました(2022 年「食欲な臓器仮説」)。最近では、胎生期の母体リズム、成長期の食行動リズムの変調が、レプチンやアルドステロンリズムのひずみを引き起こし、健全な健康加齢が阻害されることを発表しました。また、健康保険者 5000 万人規模のビッグデータのネットワーク解析、ヒトウェアラブルセンサー、環境センサーから得られる生活・生体活動情報の AI 解析から、多疾患クラスターの発症・融合(多重罹患)のダイナミズムの解明とそのアルゴリズム生成、個々人の疾患発症の精密予測を目指しています。このような視座、活動姿勢をもって財団活動を支えていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

監事就任挨拶

滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター センター長・教授 三 浦 克 之



この度、健康加齢医学振興財団の監事に就任致しました滋賀医科大学の三浦克之です。どうぞよろしくお願い致します。専門分野は疫学、公衆衛生学、予防医学で、特に循環器疾患をはじめとする生活習慣病全般を対象としています。滋賀医科大学の公衆衛生学の教授を兼ねていますが、2013年に設立された滋賀医科大学NCD疫学研究センターのセンター長を務めています。

す。本センターは、当財団の監事をお務めの上島弘嗣名誉教授が立ちあげられた多くの疫学研究を発展させるために設立されました。厚生労働省指定研究 NIPPON DATA、滋賀動脈硬化疫学研究 SESSA、滋賀循環器登録研究 SSHR 等、多様な疫学研究を推進しています。私も若い頃に当財団の奨励賞をいただき、疫学研究、予防医学研究を続けるための大きな励みになりました。わが国の健康加齢医学のさらなる進歩のため、財団と研究者の皆様のお役に立てれば幸いです。

2025 年度井村臨床研究賞及び奨励賞の選考経過について

応募者の選考については各選考委員の先生方による選考の後、2025 年 7 月 28 日(月) 井村臨床研究賞の選考委員会が開催され、厳格な審査の結果、井村臨床研究賞受賞者に九州大学の小川佳宏先生が選出されました。また奨励賞には岡山大学三瀬広記先生、京都大学山下侑吾先生が選出されました。

井村臨床研究賞を受賞して

九州大学大学院医学研究院病態制御内科学（第三内科） 主幹教授 小 川 佳 宏



この度は井村臨床研究賞をいただき、大変光栄に存じます。恩師の井村裕夫先生の御名前を冠した賞の受賞は私にとって大きな喜びであり、中尾一和理事長をはじめ選考委員の先生方に感謝申し上げます。又、多くの共同研究者に感謝申し上げます。

ストレス応答の司令塔である副腎は代表的な内分泌器官であり、生体の恒常性維持に主要な役割を果たします。副腎皮質は外側から、球状層、束状層、網状層の整然とした3層構造を形成し、3層特異的にアルドステロン、コルチゾール、副腎アンドロゲンが分泌されます。従来、加齢によりコルチゾールの日内変動が破綻すること、副腎アンドロゲンが著しく低下することが知られており、副腎皮質ホルモンの不均衡の病態生理的意義が示唆されています。私たちは最近、最先端のマルチオミクス解析手法を駆使し、高齢者の副腎皮質では、複数の細胞内シグ

ナル伝達経路が障害され、細胞老化と慢性炎症に特徴付けられる3層構造の著しい破綻を見出しました。一方、独自に開発した網羅的ステロイドミクス解析法を用いて、血中ステロイドプロファイルには個人差があること、これにより暦年齢には必ずしも一致しない「副腎年齢」の推定が可能であることを提唱しました。以上により、副腎の加齢性変化とその結果生じる副腎皮質ホルモン産生病変により副腎皮質ホルモン分泌の不均衡が生じ、様々な生活習慣病の発症につながることを明らかにしました。

以上のように、加齢により増加する健康障害の基盤病態として副腎皮質ホルモン分泌の不均衡を位置付けることにより、生活習慣病の発症機構の解明と早期発見・早期介入の手掛かりの同定を目指し、健康加齢社会の実現に貢献します。将来を担う若手研究者と力を合わせて、臨床症例・検体の詳細解析により得られた臨床的な知見を種属差やモデルの特性を考慮した動物・培養実験により検証する、ヒト内分泌学の新しい研究トレンドを先導したいと考えています。

井村臨床研究奨励賞を受賞して

岡山大学医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学 助教 三 瀬 広 記



この度、2025 年度井村臨床研究奨励賞に採択していただき誠にありがとうございます。

私は、2011 年から糖尿病関連腎臓病（DKD）の臨床及び基礎研究を中心に、腎臓病や糖尿病合併症の研究に取り組んでおります。その中でも、今回選考委員長の伊藤裕先生よりご指摘いただいた、“糖鎖”に関する研究は独創性と優位性を高く評価していただき、大変感激しております。糖鎖の研究は基礎的研究にも発展させ、現

在多くの共同研究を通じて、シングルセル単位での糖鎖解析やヒト腎生検組織を用いた空間グライコム解析も行っております。

今回の受賞や、授与式でいただきました数々の激励のお言葉を更なる励みに、将来「健康加齢医学賞－岡本・井村賞－」を受賞できるように日々精進して参ります。最後に、選考に関わっていただきました多くの方々に心より御礼申し上げますとともに、健康加齢医学振興財団の益々のご発展を祈念いたします。

京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 助教 山 下 侑 吾



私は、臨床現場で数多くの心血管系疾患の患者を診療し、それらの経験を元に、臨床医の視点に基づく様々な臨床研究を行って参りました。特に血栓症を中心とする大規模研究に関与

させて頂く機会にも恵まれ、多数の研究を主導して参りました。数多くの共同研究者の先生方と共に、日本のみならず世界的にも同領域の発展に大きく貢献できたものと考えております。

この度は、2025 年度の井村臨床研究奨励賞の受

賞に関しまして、選考委員の先生方を含めて、公益財団法人 健康加齢医学振興財団の関係者の先生方に心より御礼申し上げます。このような栄誉ある奨励賞を受賞させて頂き、今後、さらなる医学研究者としての飛躍を目指したいと改めて強く思った次第でございます。そして、昨今、日本での研究力の低下が危惧されておりますが、諸先輩方が築き上げられた素晴らしい日本の医学研究の系譜をさらなる次世代の先生に繋いでいくことも自分の次なる使命と考え、今後も精進したいと考えております。



写真左より伊藤選考委員長（現；理事）、小川先生、井村元理事長、中尾理事長、後列 三瀬先生、山下先生

健康加齢医学賞市民公開講座

この受賞講演に続いて、当財団が毎年開催している健康加齢医学賞市民公開講座が開催されました。



講演1では京都大学医学部教授に就任された井上浩輔先生に「データから読み解く、健康加齢への道標」と題して講演をいただきました。この講演の座長は元横浜労災病院院長の西川哲男先生がつとめられました。なお、西川哲男先生は平成26年（2014年）に「原発性アルドステロン症診断・治療法の確立と、その病態解明にする検討」の研究テーマで当財団の井村臨床研究賞を受賞されています。



中尾理事長による講演

講演2では当財団理事長である京都大学中尾一和先生に「健康加齢への養生の勧めー生活習慣病と認知症ー」のタイトルで講演をいただきました。この講演の座長は京都大学医学研究科メディカルイノベーションセンター長の成宮周先生（当財団理事）がつとめられました。

また、講演の終了後には懇親会が行われ、井村裕夫元理事長や家森幸男前理事長にもご出席を賜り、受賞者、演者と参加者との懇親を深めるひと時となりました。



懇親会風景 1



懇親会風景 2

当財団の2025年～2017年の受賞者と研究テーマ一覧

2025年～2017年の井村臨床研究賞及び岡本国際賞の受賞者と研究テーマ

（※各奨励賞の受賞者とテーマは財団HPに掲載しています。）

年度	井村臨床研究賞 受賞者氏名	岡本国際賞 受賞者氏名	研 究 テ ー マ
2025年	小川 佳宏		「副腎皮質の加齢性変化の分子機構と臨床的意義に関する研究」
2024年		森 和俊	「小胞体内に異常蛋白が蓄積され生ずる小胞体ストレスとそれに対応する小胞体ストレス応答に関する重要な数々の発見」
2023年	植木浩二郎		「大規模臨床研究による2型糖尿病合併症予防法の検証」
2022年		Deepak Srivastava	「心血管系の発生制御機構、先天性心疾患の遺伝学と心筋リプログラミングと再生法に関する重要な発見」
2021年	斎藤 能彦		「超高齢化社会における健康加齢医学・医療の質の向上に貢献する基礎的臨床的エビデンスの創出」
2020年		今井眞一郎	「NAD ⁺ /sirtuinによる全身の老化・長寿の制御機構を解明し nicotinamide mononucleotide を使った抗老化介入効果の検証」
2019年	北村 和雄		「アドレノメデュリンのトランスレーショナルリサーチ」
2018年		湊 長博	「免疫老化および癌免疫のメカニズムの解明」
2017年	伊藤 裕		「内因性生理活性物質補充によるエネルギー代謝制御と健康加齢の実現」

公益財団法人 健康加齢医学振興財団（役員一覧 2026年3月1日現在）

理事長	中尾 一和 … 京都大学 名誉教授	(内科学)
理事	伊藤 裕 … 慶應義塾大学予防医療センター 特任教授	(内科学)
理事	岩井 一宏 … 京都大学 名誉教授	(内科学)
理事	上本 伸二 … 滋賀医科大学 学長	(外科学)
理事	寒川 賢治 … 国立循環器病研究センター 名誉研究所長	(生化学)
理事	成宮 周 … 京都大学大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター長	(薬理学)
理事	樂木 宏実 … 大阪労災病院 総長	(老年医学)
評議員	稲垣 暢也 … (公財) 田附興風会医学研究所 北野病院理事長	(内科学)
評議員	葛谷 英嗣 … 康生会武田病院 顧問	(内科学)
評議員	斎藤 能彦 … 奈良県西和医療センター 総長	(内科学)
評議員	高橋 伯夫 … 関西医科大学 名誉教授	(臨床検査医学)
評議員	鍋島 陽一 … 京都大学大学院医学研究科 特任教授	(病理学)
評議員	平田 結喜緒 … (公財) 兵庫県予防医学協会 副会長	(内科学)
評議員	南野 直人 … 国立循環器病研究センター研究所 客員研究員	(生化学)
監事	上島 弘嗣 … 滋賀医科大学 名誉教授	(社会医学)
監事	三浦 克之 … 滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター長	(社会医学)

ご寄附のお願い

次の世代へ、健康に歳を重ねる社会をつなぐために

本財団は、健康な加齢（Healthy Aging）に関する学術研究の支援、研究助成・顕彰、学術講演会の開催などを通じて、健康長寿社会の実現を目指して活動しています。

これらの公益目的事業は、皆さまからの温かいご寄附に支えられ成り立っています。企業の皆さまはもとより、個人の方からのご寄附も広く受け付けております。

本財団は、内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けた「特定公益増進法人」であり、当財団へのご寄附は税制上の優遇措置の対象となります。

私たちの活動趣旨にご賛同いただけましたら、ぜひご支援を賜りますようお願い申し上げます。詳しくは、当財団ホームページをご覧ください。

※本財団では、ご自身の財産の一部を将来の健康長寿社会のために役立てたいとお考えの方から「遺贈によるご寄附」もお受けしております。

※当財団は1987年に成人血管病研究振興財団として創設され、2018年 健康加齢医学振興財団に改称された公益財団法人です。

今後の予定

2026年度健康加齢医学賞および奨励賞の公募期間：2026年3月10日～5月10日

2026年の授与式・講演会(予定) 日程：2026年12月5日(土) 場所：京大構内 芝蘭会館稲盛ホール

〒606-0805 京都市左京区下鴨森本町15 生産開発科学研究所 3F

公益財団法人 健康加齢医学振興財団

HP：https://www.rfha-jpn.org

TEL & FAX：075-744-0070 E-mail：info@jvdrf.or.jp